

2015年8月13日

**電通総研、「若者×働く」調査を実施**

- 働いている18~29歳の若者の4割が「働くのは当たり前」だと思っているが、「できれば働きたくない」と思っている若者も3割。
- 若者の4割は安定した会社で働きたいと思っているが、1つの会社ですべて働いていたいという割合は2割弱にとどまる。

電通総研は、日本の「今とこれからの働き方」を研究・提言する「×働く」スタディーズの「女性×働く」「シニア×働く」に続く第3弾として、これからの社会を担っていく存在である「若者」の就労観に着目し、電通若者研究部（ワカモン）との共同で「若者×働く」調査を実施しました。この調査は、週に3日以上働いている18~29歳の男女3,000名を対象とし、30~49歳の男女2,400名のデータと比較することで、若者の現在の働き方、働く目的、働くことに対する意識などを明らかにしました。

調査結果では、18~29歳の2人に1人が、給料などの待遇面などに不満を感じています。また、働く目的では、“現実”では「安定した収入のため」という回答が約7割と高いものの、“理想”では「生きがいを得たい」といった前向きなマインドがあることが分かりました。働くことへの考え方については、働くのは当たり前だと思っている割合が約4割である一方で、できれば働きたくないと思っている割合も約3割に上りました。会社や仕事の選び方では、できるだけ安定した会社で働きたい（37.1%）と思う一方で、1つの企業ですべて働いていたいと思うという意識は低く（17.3%）、会社に所属しながらの在宅勤務や、勤務時間を選べる環境で働いてみたい、という意識があることも分かりました。

本調査の主な結果は以下のとおりです。

1. 若者の約3割が非正規雇用。女性では約4割。
2. 働く上での不満は、給料などの待遇面、有給休暇の取りづらさ、仕事の内容など。
3. 働く目的はまず先に生活の安定。働くのなら「生きがい」も得たい。
4. 現在の働き方は堅実に、理想は柔軟な働き方をしてみたい。
5. 約4割が働くのは当たり前だと思っているが、約3割はできれば働きたくないと思っている。安定した会社で働きたいが、1つの会社ですべて働いていたいという意識は低い。
6. 「社会のために働く」と聞いてイメージする「社会」は「日本」と「身近なコミュニティ」。
7. 若者は「企業戦士」「モーレッツ社員」という言葉を知らない。

----- 【調査結果の詳細】 -----

(N=回答者実数)

※対象エリアの就労者の人口構成に基づき、ウエイトバック集計を実施しています。

※図のスコアは小数点第2位で四捨五入しているため、足し上げても100%にならない場合があります。

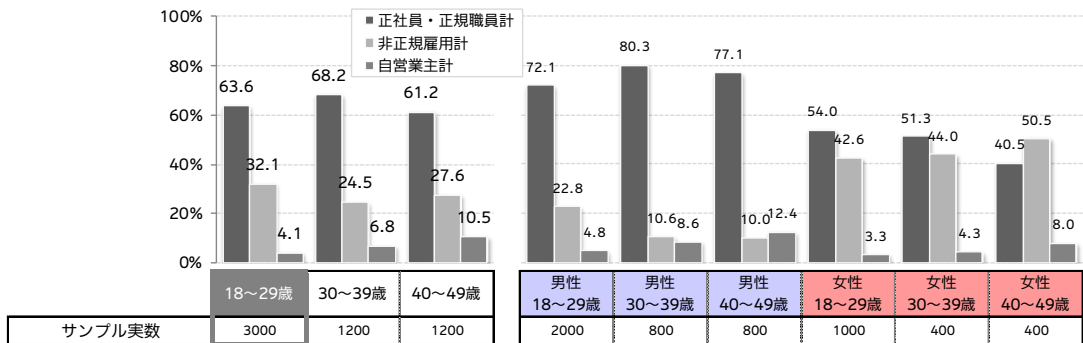
**1. 若者の約3割が非正規雇用。女性では約4割。**

●18~29歳の約3割が非正規雇用。女性18~29歳では約4割。(図1)

現在の雇用形態を聞いたところ、18~29歳では、正社員・正規職員 63.6%、契約社員、派遣社員、パート・アルバイトなどの非正規雇用 32.1%、フリーランスなどを含めた自営業主が 4.1% となった。非正規雇用の割合は男女の差が大きく、男性 18~29歳の 22.8%に対し、女性 18~29歳は 42.6%となっている。なお、女性は 18~49歳のどの年齢層でも、4割以上が非正規雇用となっている。

図1 現在の雇用形態

【設問】あなたの雇用形態をお知らせください。(単一回答)



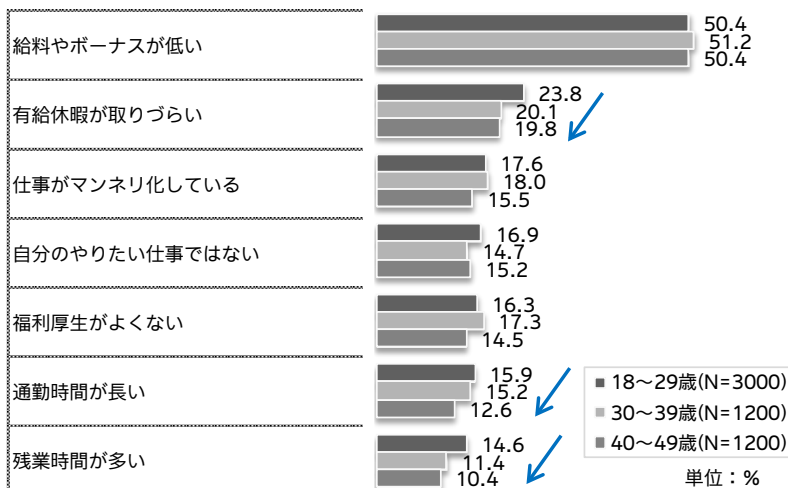
**2. 働く上での不満は、給料などの待遇面、有給休暇の取りづらさ、仕事の内容など。**

●どの年代においても、2人に1人が給料やボーナスの低さに不満を感じている。(図2)

働く上での不満を聞いたところ、18~29歳では「給料やボーナスが低い」(50.4%)、「有給休暇が取りづらい」(23.8%)、「仕事がマンネリ化している」(17.6%)が上位に挙げた。「給料やボーナスが低い」はどの年代においても共通して高いが、「有給休暇が取りづらい」「通勤時間が長い」「残業時間が多い」という項目は、年代が若いほどスコアが高い。

図2 働く上での不満

【設問】あなたは、現在働く上で不満がありますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(複数回答)



### 3. 働く目的はまず先に生活の安定。働くのなら「生きがい」も得たい。

#### ●現実には安定や趣味のために働く。理想は働くことで生きがいも得たい。(図3)

現在の働く目的を聞いたところ、18~29歳では「安定した収入のため」(69.3%)、「趣味や遊びに使うお金を稼ぐため」(36.5%)、「将来(就労期間中)の生活資金のため」(30.5%)といった項目が上位に並び、生活の安定が目的となっていることが分かる。

理想の目的では、上位2項目は変わらないが、「生きがいを得るため」という項目が上位に挙がっている。

#### 図3 働く目的・モチベーション

【設問】

現実：(1) 現在あなたが働いている目的・モチベーションをすべてお知らせください。(複数回答)

理想：(2) あなたが「働くのならこの目的のために働いてみたい」と思えるものを  
今の仕事や働き方にとらわれずに、すべてお知らせください。(複数回答)

(18~29歳)	現在	(18~29歳)	理想
安定した収入のため	69.3	安定した収入のため	40.6
趣味や遊びに使うお金を稼ぐため	36.5	趣味や遊びに使うお金を稼ぐため	25.6
将来(就労期間中)の生活資金のため	30.5	生きがいを得るため	25.4
経済的に自立するため	30.0	裕福な暮らしをするため	18.0
生活環境を安定させるため	29.1	自分の才能や能力を発揮するため	17.2
家計を支えるため	25.0	将来(就労期間中)の生活資金のため	17.0
老後(リタイア後)の生活資金のため	20.7	経済的に自立するため	16.5
生きがいを得るため	12.9	自分の才能や能力を高めるため	15.4
家族を養うため	12.5	老後(リタイア後)の生活資金のため	14.9
社会の一員としての義務を果たすため	12.5	家計を支えるため	14.4
	(%)		(%)

### 4. 現在の働き方は堅実に、理想は柔軟な働き方をしてみたい。

#### ●できれば多様で柔軟な働き方をしてみたい。(図4)

現在の働き方として、「会社や職場から与えられた目標を堅実にこなすために働く」(21.1%)、「年収はそこそこだが、自分が生まれ育った地元や地方で働く」(15.0%)といった項目が上位に挙がっている。

やってみたいと思う働き方では、「会社に所属しながら、在宅勤務など、自宅で仕事をする」(19.7%)、「働き手の事情に応じて、勤務時間を選べる環境で働く」(16.4%)など、多様で柔軟な働き方をやってみたいと思っている若者が一定数存在している。

#### 図4 現在の働き方 / やってみたいと思う働き方

【設問】

(1) あなたは、現在どのような働き方をしていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

(2) あなたが、現在やっている、やっていないに関わらず、いずれ自分でやってみたいと思う働き方をすべてお知らせください。(複数回答)

##### 現在の働き方 (18~29歳)

会社や職場から与えられた目標を堅実にこなすために働く	21.1
年収はそこそこだが、自分が生まれ育った地元や地方で働く	15.0
雇用が安定していて、残業や転勤もある正社員として働く	13.0
定型業務や補佐的な業務を行う、一般職として働く	12.6
終身雇用で定年まで同じ会社で働く	11.2 (%)

## やってみたいと思う働き方（18～29歳）

		(現在している)	(やってみたい- 現在している)
会社に所属しながら、在宅勤務など、自宅で仕事をする	19.7	3.1	16.6
働き手の事情に応じて、勤務時間を選べる環境で働く	16.4	7.9	8.5
信頼できる仲間と、小規模なビジネスや仕事をする	14.7	3.6	11.1
知名度は高くないが、ユニークな技術やサービスを持つ企業で働く	14.5	4.2	10.3
年収はそこそこだが、自分が生まれ育った地元や地方で働く	14.1	15.0	-0.9 (%)

### 5. 約4割が働くのは当たり前だと思っているが、約3割はできれば働きたくないと思っている。安定した会社で働きたいが、1つの会社ですべて働いていたいという意識は低い。

#### ●できるだけ安定した企業で働きたいという割合は女性で高い。（図5）

働くことへの意識については、18～29歳の約4割が「働くのは当たり前だと思う」（39.1%）一方で、「できれば働きたくない」（28.7%）が約3割に上ることが分かった。仕事に対する価値観でも「仕事はお金のためと割り切りたい」（40.4%）など、消極的なマインドがある中で、「自分の働き方はできる限り自分で決めたい」（28.4%）という意識がある。

会社や仕事の選び方は「できるだけ安定した会社で働きたい」（37.1%）という意識が強いが、「1つの企業ですべて働いていたいと思う」という意識は17.3%。

周囲や社会とのかかわり方では、「できるだけ価値観が共有できる仲間とだけ仕事がしたい」（32.9%）、「社会に貢献できる仕事・会社を選びたい」（23.2%）となっている。

「できるだけ安定した会社で働きたい」という項目は、女性18～29歳で44.3%と高い。

#### 図5 働くことへの考え方

【設問】あなたのお考えに近いものをすべてお知らせください。（複数回答）

		男性		女性
		18～29歳 (N=3000)	18～29歳 (N=2000)	18～29歳 (N=1000)
働くことに対する意識	働くのは当たり前だと思う	39.1%	36.1%	42.5%
	できれば働きたくない	28.7%	26.2%	31.4%
	自分の働き方はできる限り自分で決めたい	28.4%	24.2%	33.2%
会社や仕事の選び方	できるだけ安定した会社で働きたい	37.1%	30.8%	44.3%
	できるだけお金を稼げる仕事・会社を選びたい	23.9%	20.8%	27.5%
	1つの企業ですべて働いていたいと思う	17.3%	16.2%	18.5%
仕事に対する価値観	仕事はお金のためと割り切りたい	40.4%	39.3%	41.7%
	周囲とのかかわり方	できるだけ価値観が共有できる仲間とだけ仕事がしたい	32.9%	29.7%
社会とのかかわり方	社会に貢献できる仕事・会社を選びたい	23.2%	23.8%	22.5%
	社会は自分たちの働きで変えられると思う	11.1%	12.7%	9.3%

## 6. 「社会のために働く」と聞いてイメージする「社会」は「日本」と「身近なコミュニティー」

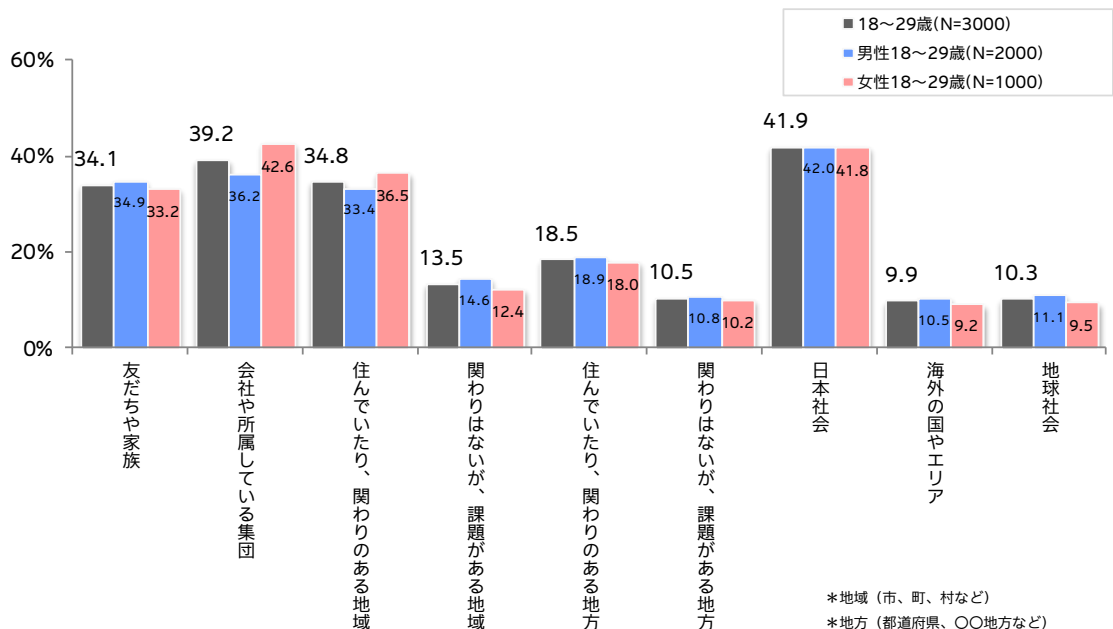
### ●個人によってイメージが異なる「社会」の範囲（図6）

「社会」という言葉がイメージするものとして、18~29歳では「日本社会」（41.9%）、「会社や所属している集団」（39.2%）、「住んでいたり、関わりのある地域」（34.8%）、「友だちや家族」（34.1%）が上位に挙げられた。社会=日本というイメージと同時に、友だちや家族といった身近な「社会」も想起されていることが分かる。

女性18~29歳は「会社や所属している集団」（42.6%）が最も高く、身近なコミュニティーを社会としてイメージしている。

### 図6 「社会」という言葉に近いイメージ

【設問】あなたが「社会のために働く」「社会に貢献をする」と考えたときに、あなたにとっての「社会」とは、どのイメージに近いですか。（複数回答）



## 7. 若者は「企業戦士」「モーレツ社員」という言葉を知らない。

### ●若者の知らない「企業戦士」「モーレツ社員」。(図7)

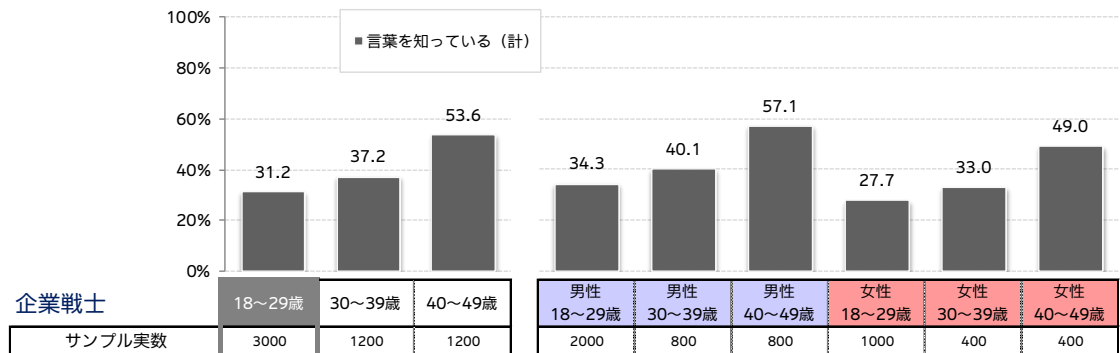
働き方に関連した言葉について知っているかどうかを聞いたところ、「企業戦士」の認知率は、40~49歳が53.6%であるのに対し18~29歳は31.2%。また「モーレツ社員」は、40~49歳が54.4%であるのに対し18~29歳は21.7%と、年代により大きな差が見られた。

これらの言葉は、高度成長期に仕事に熱中する、企業のために粉骨砕身で働くサラリーマンの像を表した言葉であり、世代ギャップがあることが分かる。

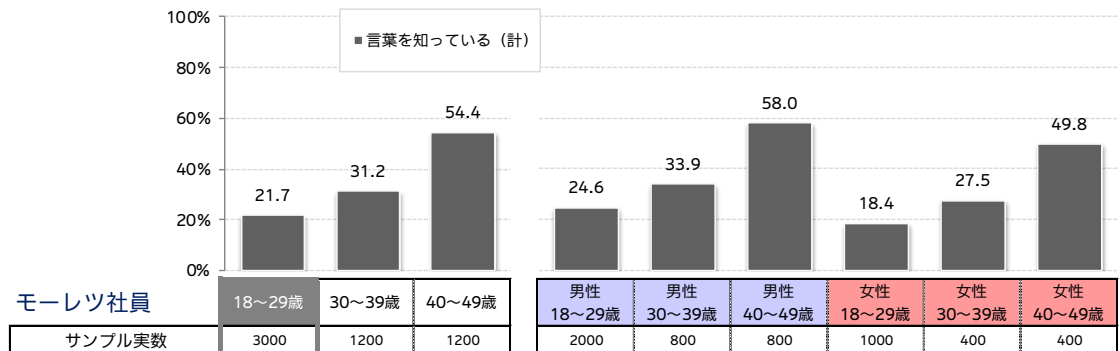
### 図7 働き方に関連した言葉

【設問】あなたは、以下にあげる働き方に関連した言葉を知っていますか。（各単一回答）

選択肢：言葉も内容も知っている / 言葉は知っているが内容は知らない / 言葉は知らないがこの内容は知っている / 知らない



\*言葉を知っている (計) → 言葉も内容も知っている + 言葉は知っているが内容は知らない



## ■「若者×働く」調査概要

- ・調査対象 : 週3日以上勤務の就労者 男女 18~49歳男女
- ・対象エリア : 全国
- ・サンプル数 : 5,400 サンプル

	18~29歳	30~39歳	40~49歳	合計
男性	2000ss	800ss	800ss	3600ss
女性	1000ss	400ss	400ss	1800ss

※対象エリアの就労者の人口構成に基づき、ウエイトバック集計を実施

※学生は含まない

- ・調査時期 : 2015年3月20日(金)~3月23日(月)
- ・調査手法 : インターネット調査
- ・調査会社 : 株式会社 ビデオリサーチ

## 【本調査に関する問い合わせ先】

株式会社電通

電通総研 ヒューマン・スタディーズ・グループ 小木 TEL : 03-6216-8458

電通若者研究部 (ワカモン) 奈木 TEL : 03-6216-8462

電通若者研究部 (ワカモン) についての情報は下記をご覧ください。

ウェブサイト URL : <http://www.dentsu.co.jp/dii/project/wakamon/index.html>

Facebook ページ URL : <https://www.facebook.com/wakamon.dentsu>

以上